



みどりの東北

「へえ〜、そうなんだ!」

高山の鳥

指導普及課長

青山一郎

Ichiro Aoyama

涼を求めて下界を離れる輩が増える夏山シーズン。森林限界よりも上で見られる鳥たちは概して地味だが、短い夏に子育てを終えるため日中でも活動的で、また、山男や山女を信頼してか里よりずっと間近で見られる。そんな彼らのご紹介。

高山の岩石地で最も賑やかなのは**ビンズイ**で、飛びながら囀る姿も声もヒバリに似ている。**カヤクグリ**は茶一色で特徴のない外見だが、ハイマツの上などでチリリリと虫のように澄んだ声で複雑なメロディーを囀る。

ホシガラスはハイマツやアオモリトドマツの毬果をバラして種子を頬袋で運び貯食する。ほっぺを脹らませた剽軽な顔は印象的。植物の移動分散にも一役買っている。

ハリオアマツバメの営巣地はブナ林なので彼も登山者。晴天

の稜線で風切り音を響かせて飛び交う様は圧巻。ツバメとはまったく別のアマツバメの仲間で、山がガスと里に来るので雨の前兆の意の名を持つ。

高山より少し下の亜高山帯の低木林の鳥は、藪に隠れて姿は見づらいが声は特徴的だ。口笛をウソと言うそうだが、名のとおり口笛のような声でなく**ウソ**は、夏は亜高山に住み、冬は里に下りる漂鳥。ベジタリアンで桜の冬芽を食べて疎まれることもあるが、雄の頬は桜色で可憐。柔らかい音質の**ルリビタキ**や「銭取り銭取り」と鳴く**メボソムシクイ**など。

登山の際には、鳥の姿や歌もお楽しみ下さい。疲れも吹き飛びますよ。



ハリオアマツバメ



ビンズイ



ルリビタキ



カヤクグリ



ウソ



ホシガラス



メボソムシクイ